令和4年度第4回東海村高齢者福祉計画推進委員会　議事録

日時		令和5年3月20日（月）午後6時30分～午後8時
場所		東海村役場　原子力視察研修室
出席者	委員	薄井委員長，藤澤委員，土屋委員，安田委員，今橋委員，石丸委員，砂押委員，関山委員，内藤委員，舟木委員，菊本委員，岡村委員，杉山委員（13名）
	事務局	（地域福祉課）古川課長，山口課長補佐，ヴァキリ係長，檜山主任，増子主事，（保険課）川﨑課長補佐，鶴田係長，上田係長，（総合相談支援課）藤田課長，前田課長補佐，武藤係長，川上係長
議題		(1)令和4年度の取組内容と計画値に対する年度末評価 (2)その他
内容 **議題(1)**		●事務局より説明： 各事業による評価，意見，それに対する各担当からの回答をまとめてみた（別紙：評価シート）。限られた時間内で46事業の評価をするため，まずは，重点事業の評価をしていただき，その後，委員評価と事務局評価が異なるものを評価，最後に，事務局評価と委員評価が一致している事業を含め，すべての事業に対する評価を確定していただきたい。 **【重点事業の評価について】** **No2「介護予防体操の推進」について** シルバーリハビリ体操教室のいきいき体操教室。村からの委託でシルバーリハビリ体操指導会に委託している事業となる。令和4年度については，コロナの影響のため，前年度のような非常事態宣言等が出なかったことから予定通りできたこと，また，参加人数が，新規参加者を含めて元に戻ってきていることから，A評価とした。 ⇒A 異議なし **No3「認知症予防教室の開催」について** 今年度から地域包括支援センターが民間委託になった。9月から「ずっと元気」という名称で教室を開催している。回を重ねるごとに参加者が増えており開催回数，延べ参加人数が計画値に達していないが，9月からの開催だったということを加味してA評価とした。 ⇒A　異議なし **No4「地域介護予防活動支援事業」について**

コロナ禍の中で継続して活動できるように活動時間や活動人数を調整し，団体ごとに工夫した活動をしていた。今年度は県北エリアでサロンの集う場に参加させていただき，活動の在り方について学ぶ場を設けた。評価としては，各団体意欲があり，活動もできたということでＡ評価とした。
⇒A　異議なし

No16「医療と介護の連携の推進」について
在宅医療・介護連携推進会議を開催し，具体的事項や令和４年度の実施計画について，今年度初めて委員の皆様から承認を受けたところ。今年度から会議をはじめ，北部・南部地域包括支援センターと連携を取り，徐々に事業を進めている。3 月に北部・南部地域包括支援センターに相談窓口を設置し，ホームページも作成した。ホームページについては今後も充実させていこうと考えている。来年度以降も徐々に事業を進めていきたい。今までできていなかった事業が進んでいるということでＢ評価とした。

【委員長から】
MCS については，今のところ有料化の部分ではないところで使えているというところだが，有料化して医師会でも MCS にするのは積極的ではないというところもある。また，ひたちなか市は別のツールを使っている。アプリケーションということで具体的にどのようなことを考えているのか。当面は継続ということか。
【事務局より】
ひたちなか市では，電子連絡帳を使っていると思うが，那珂医師会の方では MCS をかなり推進されているということをお聞きした。村内介護事業所では，ほぼ 100%MCS の方を使っていただいているので，もし医師会で使い勝手が悪いのでなければ MCS を推進していただきたい。
【委員長から】
そもそもこのアプリは有料化しないということで自治体に売り込みに来られていた。国の事業でもある。医師会の方にも聞いて情報収集しておく。
他の意見は如何か。
⇒B 異議なし

No18「総合相談支援拠点の機能強化」について
実績値が計画値に満たない背景には，今年度は郵送による調査としたため，民生委員からの相談が少なかったことが原因と考えられる。計画値に対する実績値が 7 割程度であり，昨年度評価で計画値に対する実績値で評価をするようにという意見があったので，B 評価とした。また，地域包括支援センターが 2 か所に分かれたことと，総合相談支援課が絆に新設されたことにより，周知活動と地域包括支援センターのアウトリーチ活動を積極的に行ったが，次年度も今年度同様に周知を積極的に実施する必要性

	を加味したこともあり，B 評価とした。 【委員長より】 この事業については，委員評価と事務局評価の意見が分かれている。「なぜ B 評価なのか，計画と実績が一致しているから A でいいのではないか」，「相談件数の実績としては足りないが，やれることはやっているのではないか」という意見もある。意見をお願いしたい。 【委員より】 何をもって評価するのかというのが大切だと思う。仮に計画値の相談件数に対して実績値が下回るという時，相談があったほうがいいのか，或いはなくてもそれなりにこの事業が回っているのであれば，数字だけでの評価というのは難しいと思う。件数がなくても，私は A 評価でいいと思う。 【委員長より】 こういう意見が出ることはあると思っていた。相談の数が増えることがいいのであればいいのだが，それだけでは判断できない。一方で数だと分かりやすく計算上達成率が出しやすい。私たちはどっちで評価するのかということなのだが。今の意見はちゃんとやっているのだから A 評価でいいということでよろしいか？暫定的に委員会の判断としては委員の評価が多い B 評価としたい。よろしいか。 ⇒B　異議なし **No19「多様な相談機関との連携」について** こちらの事業については，相談を受理した場合，受理したところで解決できるものもあるが，受理した部署以外との関係を持たないと難しいことも多々ある。ケースにより対応の手法は様々で，実績値は他機関と共同対応した件数を記載している。実績の 6 割程度は，村と地域包括支援センターで連携を取っており，その他複合的にケアマネ等の介護保険の関係者になる。1・2 割が民生委員，1 割が医療関係者と連携して対応している。先ほどの総合相談支援拠点の機能強化と同様，計画値に対する実績値が 7 割程度なので B 評価とした。 　また，地域包括支援センター職員の複雑困難ケースの対応や関係機関との連携といった経験不足も否めないため，B 評価とした。今後研修や経験を積み重ね，関係機関と連携を取りながら，複雑困難ケースの円滑な課題解決に向け，能力の向上を図っていく。 【委員長より】 No18 で早速，何をもって評価するのかということになった。1,250 件に対して 800 件。数だけで言うと B 評価，内容に関してはちゃんとやっているのだから，相談件数が少なくても A 評価でいいのでは，というのが先ほどの議論。 では，意見をお願いしたい。

【委員より】
件数と実情が違うと思うのでA評価とした。私の方では，支援困難ケースが今年度は多く関わることがあった。地域包括支援センターの方は北部，南部の方いずれも迅速に対応して，解決に進むケースが多かったので，対応としては充実しているということで評価した。

【委員より】
B評価と判断した。計画値があって，実績値にこれだけ差が出るということがある。相談件数が少なかったといえばそれまでだが，逆に言えば相談を掘り起こせなかったというところで，今回は来年度の期待を残しつつB評価とした。
やはりまだまだ，自分から相談するケースが少ないと思うので，そこをどう掘り起こすのかが課題で，掘り起こしても多機関と連携を図らないと解決は難しい事例がこの１年で痛感した。今年度はこういう結果に終わったが，来年度は多機関と連携を図らないといけないケースを掘り起こすという期待を込めてB評価とした。
No18も同じで，計画値と実績値が2,500件に対し，2,000件にもいかなかったということもあった。今年度から地域包括支援センターが民営化になり，2分割になり，包括の職員も周知活動は集中してやっていたが，地域包括支援センター自体が分からないという方もまだまだいる上に，周囲の方に地域包括支援センターについて教えてもらっても相談に行っていいのか分からない方もいるようなので，周知がまだまだ足りなかったのが実績値につながったと思い，B評価とした。
【委員長より】
確かに議論の中身を分かっている方は計画値に対して実績値が届かなくてもA評価というのは納得されると思うが，こういう議論に立ちあわなかった方に件数がこれだけ下がっていてA評価といえるのかというと難しい気がする。もしかすると計画値が妥当でなかったかもしれない。例えば，総合相談事業でやるのか，認知症初期集中でやるのかでも同じ件数でもどっちでやるかということで分かれてしまうので，その辺の切り分けをして，計画値が適正なものを選択できていれば，A 評価になるかもしれなかった。一応，評価としては，よくやってくれたが，計画値に達していないのと，今後もっと頑張っていただくということで，No18,19はB評価としたい。
⇒B 異議なし

No22「地域支え合い体制整備事業」について
今年度は第2層協議体が中丸地区で発足したことと，地域課題を共有するためにも地域包括支援センターの職員に入っていただき，勉強の場を設けて連携強化を図ったということでA評価とした。
⇒A　異議なし

	No40「認知症初期集中支援チームの強化」について。 今年度から地域包括支援センターに認知症地域支援推進員が配置され，チームにも参加していただき，圏域ごとに担当が増えたことで相談件数が大きく伸びている。また，相談に来られない方に対しても，高齢者が多く利用する場所に出向いて健康相談と合わせ認知症の簡易検査等を行い，そこから初期集中支援につながったケースもある。計画値を大きく上回っているのでA評価とした。 ⇒A　異議なし **No42「認知症サポーター養成事業」について** 今年度は，地域包括支援センターの認知症地域支援推進員を中心に，認知症サポーター養成講座を開催。特に，今年度実施できたのは，若年層の部分で大きく増えている。高校生に5回実施している。中学生については東海中学校，東海南中学校と開催でき，東海高校の生徒を対象にできたことも大きな効果である。ステップアップ講座も前年度1回だったが，今年度は2回できている。計画値を大きく上回っているのでA評価とした。 ⇒A　異議なし 【委員評価と事務局評価が異なるものを評価】 （※時間の都合上，途中から委員の評価が2つ以上異なるものを評価） **No8「専門職による介護予防事業の推進」について** ⇒A　異議なし **No9「はり・きゆう・マッサージ等施術費助成事業」について** 【委員より】 申請者が198人で，利用者数が144人ということもあり，ニーズに合っているのかということを含めてB評価とした。限られた予算の中でもっと有益なものにということで，一番下のコメントに「フレイル予防に関する事業の拡大」が望ましいと書かせていただいた。 【委員長より】 評価は今年やってきたことへの評価なので，来年度A評価のものを中止するというのはどうかというのは理解するが，今後についはどうかと思うという意味を込めてB評価とするという意見はありだと思う。A評価というのはよろしいかと思う。 【委員より】 この事業については，使われる方，使われない方，それぞれたくさんいるので，事業を継続するのであれば，きちんと使える人が使えるようにしてほしい。もし違うもの

にするのであれば，それをきちんと周知するという形で，これまで使っていた方が困ってしまわないように配慮した上で，事業の検討をしていただきたい。評価としては，目標に対してA評価でいいと思う。
【委員長より】
今現状の評価と，来年度その必要があるかどうかの議論とは分けていいのかと思うので，今年の評価はそれなりにできたと思う。ただ，大事なのはコメントのところなので，事務局の方に考えていただきたい。希望を込めてということで，委員会評価としてはA評価。ただし，来年度のことについてはこういう意見があったという結論としたいが，よろしいか。
⇒A　異議なし
No12「高齢者クラブの支援」について
【委員より】
評価の欄に会員数，単位クラブの減少・伸び悩みについて，どれくらい取り組んだかという説明が欲しかった。その内容によってはA評価に変わることもあった。
【事務局より】
ホームページで今の活動を紹介し，情報発信をし，会員増に向けて取り組んだ。今までは記載がなく，各団体のクラブの内容には触れていなかったので，新たにクラブの様子や事業内容を詳しくホームページに掲載させていただいた。
⇒A　異議なし

No25「高齢者見守り訪問サービス事業」について
【委員より】
役場の事業で感じているのが，福祉関係で，福祉上のニーズがあったものに対しては，完璧にオープンである。それはすごくいいことで重要だと思う。システムとしては東海村の福祉は非常にいい。ただ，こういう計画で評価という尺度では測れないようなところがだいぶある。個人的には評価というは馴染まないということを感じた。
いずれにしても，今回の評価と実態というのは必ずしもマッチングしないと感じている。
【委員長より】
総論としては，評価がなじまないのではないかということだと思う。
先ほども議論にあったが，継続していく議論なのか，必要性があるのかどうか，その必要性に対してどの程度できているのかということについては，ある程度評価しないといけないと思う。数が馴染まないとかいうことは十分理解できる。そういう意見があることで，No18やNo19は評価方法が分かれるということだったと思う。
【委員より】
郵便局の方が定期的に行って，その後親族の方にメールで訪問の様子を報告するサービスはとても画期的な事業だと思う。安否確認のサービスとしては「愛の定期便」が

あり，ヤクルトを配達することで安否確認をするという制度があるが，ヤクルトレディーは親族に報告しない。あくまでも，本人が不在の際に総合相談支援課に連絡が入るというもの。私がＣ評価としたのは，この周知が住民の方に伝わっていないから事業の件数が伸びないのかと感じた。ヤクルトの件数が上がるのは，高齢者の中でヤクルトをタダでもらえるから来てもらいたいと思っている方もいる。ヤクルトをタダでもらえる事業でなくて，安全に生活できているか確認するために，ヤクルトをサービスでお渡ししながら，ヤクルトレディーが見守りしてくれているという理解をされている方が何人いるか。見守りのサービスの違い，サービスの良さとか取り組みの内容自体が，住民に伝わっていないというところでＣ評価とした。

　このサービスだと訪問の様子がダイレクトに家族にわかるようなシステムになっているが，介護保険のサービスだと，定期巡回・随時対応型訪問介護看護くらいしかない。実際訪問介護でヘルパーが訪問した時に毎回遠方に住んでいる家族に報告しているかというとしていないと思う。私は訪問介護で働いていた経験もある。そのため，この事業が親族にメールで伝えるという手法がすごくいいことだと思うので，周知を強化してもらいたい。

【委員長より】

施策に活かしていくのはこういうコメントであると思う。総論評価としてはこうだが，細かい話でこういうことがあるということを，みんなでディスカッションしていき，それを拾い上げていただき，施策に活かしていただくというのが委員会の意味だと思う。評価は決めるが，大事なことは意見を皆さんから聞いて，役場の方に吸い上げていただくということだと思っている。

⇒C　異議なし

No27「救急医療情報キット配布事業」について

【委員より】

このキットは，冷蔵庫に貼って活用するもの。私が民生委員をやっていた際，独居や高齢者のみの世帯の方で，急に病気になったときに慌てて症状が伝えられないことがあった。服用している薬やかかりつけの病院を書く項目があり，救急隊員が駆け付けたときに治療がスムーズにいくと思う。

【委員長より】

薬の名前だと，頻繁に薬を変えている方だと，データのブラッシュアップはどうなるのだという疑問がある。

【委員より】

訪問介護をしているがキットを使ったことはないし，一度も見たことがない。独居の高齢者の方とか，救急隊に伝える内容が大事だと思う。内容を見直す必要があると思う。

⇒B　異議なし

No29「訪問理美容サービス利用料金助成事業」について
⇒A　異議なし

No30「通院時タクシー利用料金助成事業」について
⇒A　異議なし

No36「老人保護措置事業」について
⇒A　異議なし

No37「避難行動要支援者の避難支援」について
⇒A　異議なし

No38「エンディングノートの周知・活用」について
【事務局より】
内容が古くなっている部分があり，現在，内容の改訂を進めているところであるが，まだ進んでいないことから C 評価とした。現在，在宅医療・介護連携推進事業の中で改訂を進めているが，他市町村のエンディングノートを集めており，内容についての検討に入ったところ。これについては，以前も社会福祉協議や北部・南部地域包括支援センターにも協力をいただき，在宅医療・介護連携推進会議の中で委員の合意を図って，令和 5 年度中に改訂をしたいと考えている。
【委員長より】
そのあたりの足跡を載せていただくとよかった。今この過程にあることを書いていただいた方が分かりやすかったと思う。
⇒C　異議なし

No45「介護に関する講座の開催」について
【事務局より】
広く周知ができていないところがあり，令和 5 年度からは地区自治会のイベント等にも参加して，ニーズの把握をしていきたい。今年度実施した介護予防日常生活圏域ニーズ調査の結果を分析し，皆様に必要となる講座を企画できればと考えているところである。
⇒C　異議なし

No47「家族レスパイト事業」について
⇒B　異議なし

意見	【残りの事業について】 ⇒事務局評価と同一で異議なし 【委員長より】 自分でどのように評価したのか分からなくなることがある。委員会の皆様は選ばれた責任もある。今回の評価シートには氏名を書く欄がなかったので，今後は氏名を入れていただき，委員ごとの評価を全部提示し，その上で議論する方が聞きやすい。次回からはそのようにやっていこうかと思うが如何か。 ⇒異議なし 【委員より】 エンディングノート改訂というところだが，具体的にどのようなところを改訂しているのか。「わた史ノート」というタイトルも適した名前じゃないのかというところもあって，興味があるので教えてほしい。 【事務局より】 全部を書くと大変なので，ここは絶対書いてくださいとか，ここは書きたい人だけ書いてくださいというように，検討しているところ。また，独居や高齢者のみの世帯の方などで子供がいない方も多く，空き家問題もあり，財産等をどうするかなど，不足している部分を含めて，書きやすい形で，記入しやすいように，全体的に明るい感じで検討している。 【委員より】 他市町村では，行政側の評価が全てになっている評価の仕方もあるので，参考までにこの委員会での評価しているPDCAサイクルについて紹介した。
連絡事項	・次年度の第1回委員会は5月か6月頃に開催予定。詳細については追って連絡する。

以上